

## シドニー大学看護学部での本学学生の研修

—平成14年度研修の事前準備と実態—

河合 洋子<sup>1)</sup>・森 雅美<sup>2)</sup>

The Students' Participation in a Short Term "Shadowing"  
Program Provided for 2003 by the Faculty of  
Nursing, University of Sydney :  
Arrangements and Study of Nursing

KAWAI Yoko<sup>1)</sup>, MORI Masami<sup>2)</sup>

キーワード：学生の海外研修、シドニー大学、看護学、短期研修、準備活動

Key words : training in Australia, University of Sydney, nursing, shadowing, arrangement

## I はじめに

名古屋市立大学看護学部が交流窓口となる形でシドニー大学との学術交流協定の調印が平成13年度末になされた。平成14年度に具体的な交流事業を実施するにあたり、その計画が「シドニー大学との交流具体化検討委員会」において検討され、学部学生8人を短期見学プログラムに参加させることとなった<sup>1)</sup>。

一口に「シドニー大学看護学部での学生研修実施」といっても、どのような内容でどのようなスタイルで進めるかについて、受け入れ側のシドニー大学と本学で描くものとの違いがどうであるか、気にかかることが多々あった。とくに見学プログラム（英語の原文では"shadowing"とある）ではどんな研修内容かが不明であるとともに、本学学生の希望する内容がどの程度取り入れて貰えるかも気になるところであった。このように不明な点が多い中、同行した教員の著者らは本学部にとって初の交流事業を成功させねばいけないという強い気持ちで臨んだ。

ここでは、シドニー大学看護学部での本学学生の研修に同行した教員の目から、研修参加前の準備の様子と研

修の実態について報告する。また、研修終了後の学生からの評価と今後の問題点については、稿を改めて報告を行なう。

月 日	午 前	午 後	夕 方
3月17日	挨拶	1	復習, 整理
3月18日	2	2	復習, 整理
3月19日	3	4	復習, 整理
3月20日	4	整理, 交流の準備など	6
3月21日	5	5	復習, まとめ

各番号の意味する研修内容は以下の通りである。  
1：大学全体の案内およびオリエンテーションなど  
（シドニー大学看護学部の紹介、オーストラリアの看護教育制度など概略の紹介）  
2：大学での演習・実技の指導風景の見学  
3：総合病院の見学（看護師の1日を見る）  
4：専門病院・施設（老人看護、小児看護他）  
5：地域(遠隔地)医療と看護に関しての解説と施設見学  
6：シドニー大学・名古屋市立大学学生の交流

図1 シドニー大学での研修プログラム：第1次案

1) 名古屋市立大学看護学部（小児看護学）

2) 名古屋市立大学看護学部（生化学）

1) Nagoya City University School of Nursing (Child Nursing)

2) Nagoya City University School of Nursing (Biochemistry)

シドニー大学看護学部での本学学生の研修

表1 シドニー大学看護学部学生研修を実りあるものにするための準備会（平成14年度）

準備会	開催日時	主に準備・実施した内容	連絡事項など
第1回	平成14年 10月16日 pm4:30-	○教員と参加学生の顔合わせ ○資料について ・教員の手持ちの資料でシドニー大学看護学部を紹介 ・日本、オーストラリアの看護の状況を把握するための資料提供 ○教員間で協議した研修プログラム原案紹介 ・研修の期間、旅程の紹介（フライト計画など） ・研修プログラムの具体化のため 学生から研修参加の動機と研修に期待することなどを聴取	・旅券の取得状況確認
第2回	平成14年 12月20日 pm4:30-	○骨格部分の確定した研修プログラムを配付 ○オーストラリアの看護状況を記述した論文8編を準備して学生へ配付	・旅行準備の手続き
第3回	平成15年 1月15日 pm4:30-	○前回手渡した論文を学生が紹介 (10分/人)	・事務室からの連絡事項 ・旅行社からの連絡
第4回	平成15年 2月13日 am10:00-	○研修に備えた準備の確認 ・ノートを持参して、研修旅行中の出来事、感じたことを記録 ・旅行中の行動で謹んでほしいこと ○シドニー大学学生との交流会における本学紹介（プレゼンテーション）とその準備確認	・旅行社からの伝達事項など
第5回	平成15年 3月10日 am10:00-	○研修プログラム（最終版）の提示 ・学生との交流会でのプレゼンテーション準備	・事務連絡、旅行社からの連絡事項
第6回	平成15年 3月13日 am10:00-	○プレゼンテーションのリハーサル ・発表の練習 ・ポスターの手直し：構図および英語表現の見直し ・口頭発表原稿の手直し：英語表現の点検など	

表2 第1回準備会で学生へ手渡した資料一覧

<ul style="list-style-type: none"> <li>* 日本およびオーストラリアの医療・看護の状況<sup>2)</sup></li> <li>* シドニー大学看護学部の予備知識のための資料<sup>3)</sup></li> <li>* シドニー大学の卒業研修プログラム</li> <li>* 研修日程の概略（出発日、フライトの時間、宿泊先、自由行動日など）</li> </ul>
--

## II 事前準備の内容


平成14年9月1日に参加学生（2年生4名、3年生4名 計8名）の選考が行われた。同行を依頼された著者らは、教員・学生合同の準備会を都合6回開催した。以下にそれらの内容を述べる。なお、各回に行なった主な内容を表1にまとめた。

### 1) 第1回準備会：平成14年10月16日(水)

準備会開催に先だって、平成14年9月9日に同行教員2人で研修へ出発するまでに準備すべき事項を整理する機会を設けた。その場で、a) 参加学生が日本とオーストラリアの看護・保健の状況を学習する糸口になる資料

表3 研修参加の動機あるいは研修へ期待すること

<ul style="list-style-type: none"> <li>* 海外の病院を見たい</li> <li>* 医療に対する考え方の違いを知りたい</li> <li>* テレビの「ER」にあるように、日本にはないものが見られるか期待する</li> <li>* 日本と海外との看護教育の違い</li> <li>* 看護師と患者の関係(看護の実際)を見たい</li> <li>* オーストラリア特有の医療(看護)を見たい ：遠隔地医療と看護</li> <li>* 海外の進んでいる医療を見たい ← 日本は遅れているかどうか</li> <li>* 海外の看護学生が学んでいる授業(講義)内容</li> <li>* 施設見学：希望する意見多数</li> <li>* 授業の様子、講義を聴いてみたい(分からないだろうが)</li> <li>* 日本とオーストラリアの医療の違い ← 自分の学習方向を考えたい</li> <li>* 生の英語に触れたい</li> <li>* 学生との交流(意見交換)を望む</li> </ul>
---



**The University of Sydney**

Alumni & Professional Relations Office

---

**NSW 2006 AUSTRALIA**  
**Judith Romanini**  
*Director*

Faculty of Nursing (MO2)  
 College of Health Sciences  
 Telephone +61 2 9351 2414  
 Facsimile +61 2 9351 2679  
 Email: [nromanini@nursing.usyd.edu.au](mailto:nromanini@nursing.usyd.edu.au)  
 Website: <http://www.usyd.edu.au/nursing/job>

---

**Course Timetable Nagoya City University Shadowing Program**

**Monday 17 March 2003**

Morning	Welcome Introduction Overview of program
Afternoon	The Australian Health care system Nursing in Australia Tour of Faculty of Nursing

**Tuesday 18 March 2003**  
 Shadow students in tutorials, lectures and clinical laboratories  
 (Precise student timetable will not be finalised until February 2003)

**Wednesday 19 March 2003**  
 Orientation and visit to Royal Prince Alfred Hospital

**Thursday 20 March 2003**  
 Orientation and visit to Royal North Shore Hospital

**Friday 21 March 2003**  
 Rural and remote nursing lectures and possible visit to an Indigenous community centre in Sydney

- Social function with local students to be organised once the local students' timetable for 2003 has been finalised.
- I am trying to organise a visit to a local community health centre for Indigenous Australians. This may take a little longer to organise - I'll keep you informed of its progress.
- I expect that there will be one afternoon free for the students to sightsee; for example take a ferry trip on the harbour, visit our beaches or visit other areas of interest in Sydney.

図2 シドニー大学からの研修の骨格

類の選択作業、b) シドニー大学での研修期間（3月17日から3月21日の5日間）のプログラムの検討を行った。a) の資料内容を表2にまとめた。これらは研修参加準備の糸口となるとともに「研修に出かけるのだ」という心構えを形成する上で有用であろうと考えて準備した。また、b) の研修プログラム案として、図1を作成した。作成に当たって、①今回は shadowing（短期間の見学）であること、②1日を大きく午前、午後そして夕方の方の3つの枠に分けて考えること、③学生の要望を取り入れるための緩やかなもの、そして④シドニー大学側との調整の余地を残すことなどを基本的な考えとした。

はじめに日本およびオーストラリアの看護を考える資料類（表2）を配布した。さらに、同行する教員が考えている研修プログラム案（図1参照）を提示して、その意図するところを解説した。また、学生の考えを把握するため、全員に「参加の動機」あるいは「研修に期待すること」などについて意見を求めた。その結果を表3にまとめた。

特に要望が強かったこととして、1) オーストラリアの病院見学、2) 現地の学生との交流、3) 授業体験などであった。これらの点ができるだけプログラムに組み込まれるようにシドニー大学に伝えることとした。なお、

現地学生との交流効果が上るために、学生には本学の紹介とともに日本の医療・看護関連の紹介（いわゆるプレゼンテーション）を行なうようにアドバイスした。

## 2) 第2回準備会：平成14年12月20日(金)

第1回の準備会以降、本学の同行教員とシドニー大学看護学部担当者との間で研修プログラムを詰めてきたが、12月6日にシドニー大学側からその骨格（図2）が届けられた。その内容は、2つの病院見学を含めて本学からの希望が取り入れられており、研修意図に沿ったものであることで満足している旨を返信した。

準備会では、このプログラムを参加学生に紹介するとともに、見学予定として記載されている病院ホームページのURLを紹介して、予め学習することを勧めた<sup>4)</sup>。

出発前の一定の準備を担保する目的で、冬休み中に以下の2つを実施するように伝えた。

- ①オーストラリアの看護事情について記述されている論文を各自1つ読んで休み明けに抄録（A4：1枚）を提出すること。さらに次回の準備会で、他の参加学生の前でそれを口頭で紹介できるようにしておくこと。
- ②研修に出かけた際に聞きたい事項（＝質問）を英語で各自10～15問を準備しておくこと。

## シドニー大学看護学部での本学学生の研修

The University of Sydney	
NEW SOUTH WALES	Faculty of Nursing (M22) College of Health Sciences
Judith Romanini Director	Alumni & Professional Relations Office
<b>Course Timetable Nagoya City University</b>	
<b>Monday 17 March 2003</b>	
Morning	Welcome C1 03 Introduction Overview of program
Afternoon	The Australian health care system Nursing in Australia
<b>Tuesday 18 March 2003</b>	
9 am - 11.00am	Nursing 3A - tutorial C1 05
11.30am - 1.00pm	Tour of Faculty
2.00pm - 5.00pm	Nursing Concepts - tutorial Clinical labs
<b>Wednesday 19 March 2003</b>	
9.30 am - 1.00pm	Orientation and visit to Royal Prince Alfred Hospital
<del>2.00pm - 4.00pm</del>	<del>Nursing Practice 3A - lectures 90-04</del>
4.00pm - 6.00pm	Afternoon tea with year 3 students and Faculty staff
<b>Thursday 20 March 2003</b>	
9.00am - 10.30am	Indigenous Australian issues D2 01
11.00am - 1.00pm	Nursing Practice 3A Clinical labs
Afternoon free time	
<b>Friday 21 March 2003</b>	
9.00am - 1.00pm	Orientation and visit to Royal North Shore Hospital
1.30pm - 3.00pm	Conclusion and summary of visit to Faculty of Nursing D2 01

図3 シドニー大学から送付された最終的な研修プログラム

表4 オーストラリアの看護理解のために研修参加  
学生が読んだ論文

- \* 生田清美子：オーストラリア・シドニー郊外住宅地 連携と統合の高齢者ケア<sup>5)</sup>
- \* 生田清美子：病院が中心となったオーストラリア・北部シドニー地域の公衆衛生<sup>6)</sup>
- \* 鳩野 洋子：オーストラリアの地域保健活動レポート：前編 コミュニティ・ナースはどのような活動をしているか<sup>7)</sup>
- \* 鳩野 洋子：オーストラリアの地域保健活動レポート：後篇 コミュニティ・ナースの活動と求められる能力<sup>8)</sup>
- \* 本間・チェン・繭子：看護先進国オーストラリアに学ぼう 第2回 看護学士を取得するための2つの課題<sup>9)</sup>
- \* 本間・チェン・繭子：看護先進国オーストラリアに学ぼう 第3回 看護師免許取得のプログラム<sup>10)</sup>
- \* 本間・チェン・繭子：看護先進国オーストラリアに学ぼう 第4回 看護学士課程での病棟実習<sup>11)</sup>
- \* 本間・チェン・繭子：看護先進国オーストラリアに学ぼう 第6回 学生の自主性を重視する授業スタイル<sup>12)</sup>

①については、同行教員が8編を準備して、どれを読むかは学生の選択に任せた。それらの論文の一覧を表4にまとめた。

- 3) 第3回準備会：平成15年1月15日(水)、  
第4回準備会：平成15年2月13日(木)

第3回準備会では、初めに事務室からの連絡事項の伝達、旅行社からの資料説明と旅行費用の支払い法などの説明があった。その後、前回提示の論文について1人10分ほどで紹介と質疑を行なった。また、英語による質問作成の作業はほとんど進んでいなかった。

第4回準備会では、旅行社から各種連絡事項の伝達およびオーストラリア滞在中の留意事項などが伝えられた。今回の準備会では、シドニー大学の学生との交流会の際に行なうプレゼンテーションの内容確認を予定していたが、学生の準備ができていなかった。

- 4) 第5回準備会：平成15年3月10日(月)、  
第6回準備会：平成15年3月13日(木)

3月10日は、シドニー大学から3月3日に届いた研修プログラムの最終版を学生へ紹介した。この日の主目的は、シドニー大学の学生との交流会の席で行なうプレゼンテーションの予行演習であり、最後の準備会とする予

表5 平成14年度シドニー大学看護学部学生研修  
における研修概要

- 1 The Australian health care system, Nursing Australia  
: オーストラリアの医療・看護  
・ヘルスケアシステムについて  
・看護・看護教育について
- 2 Nursing 3A-tutorial: 精神保健看護の講義 (対象: 3年生)  
・精神保健 - 乳幼児の発達障害について (VTR利用)  
・精神看護 - 統合失調症の患者のアセスメント (VTR利用)
- 3 Nursing Concepts - Tutorial Clinical laboratories :  
看護の演習 (対象: 1年生)  
・看護師の役割について  
・手洗いの演習
- 4 病院見学: Royal Prince Alfred Hospital  
・病院の概要 ・パースセンター, ICU, 救急外来の  
見学
- 5 交流会 (3年生と教員)  
・日本の看護と教育システムの紹介 (プレゼンテーション)  
・フリートーキング
- 6 Indigenous Australian issue: 先住民族アボリジニの  
課題  
・アボリジニについて  
・リモート地区での医療
- 7 Nursing Practice 3A Clinical laboratories : 看護の  
演習 (対象: 3年生)  
・輸液管理について (デモンストレーション)  
・輸液ポンプの取り扱い, 輸液管理の実施
- 8 病院見学: Royal North Shore Hospital  
・病院の概要  
・脳外科病棟, ICU, 小児病棟の見学

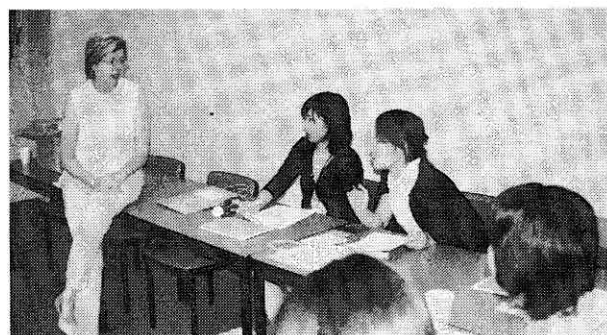


写真1 講義風景-1



写真2 講義風景-2

定であった。しかし、発表のためのポスター内容の検討が不十分であるとともに口頭発表用の英語原稿が仕上がっていないかったために、予行演習は3月13日に行なうこととした。

3月13日は午前10時からプレゼンテーションの予行演習を開始した。ポスターのレイアウト、英語の単語、論理の展開法、口頭発表原稿の英文チェックなどと課題が積み上がっていった。出発を翌日に控えていたため、これらの課題は同行教員が全面的に支援することにして、午後4時に準備会は散会した。

最後の仕上げ作業は同行教員の負担となった。同行教員は当日夜10時過ぎまでかけてこれらの課題の解決に取り組むこととなった。発表用ポスターでは、30枚のポスターすべてについて表現の再点検、レイアウトの再考、最終的な印刷作業などを行なった。他方、口頭発表用原稿についても文法上のミスの訂正とともに、より適切と思われる表現への変更とその印刷に追われた。なお、最終的な予行演習は、交流会の前夜にシドニー市内の宿泊ホテル内で2時間ほどを要して行なった。

### III 研修の主な内容

研修は、図3のプログラムの日程にしたがって進められた。ただし、3月19日午前の病院見学が予定時間を超過したため、午後の講義参加が中止になった。研修内容の概要を表5にまとめた。

#### 1 第1日: Monday, March 17, 2003

写真1のように、専門職能研修事務室 Director の Ms. Judith Romanini から、資料とパワーポイント (プレゼンテーション用ソフト) を用いて、以下の2つの項目について講義を受けた。講義は、学生の理解度を確かめながら丁寧に進められた。

##### 1) The Australian health care system

はじめに、オーストラリアの人口動態、出生率、平均寿命、死亡原因等、医療の状況などについて説明を受けた。また死亡原因は、悪性新生物、心疾患、脳血管障害の順で(2001)<sup>10)</sup>、日本と似た傾向にあることがわかった。また、人口の約3%を占める先住民族のアボリジニは、多くが遠隔地に住んでいて、彼らの周産期死亡率や乳児死亡率はオーストラリアの平均値よりかなり高いこと、また平均寿命が60歳程でしかないことということであった。

## シドニー大学看護学部での本学学生の研修

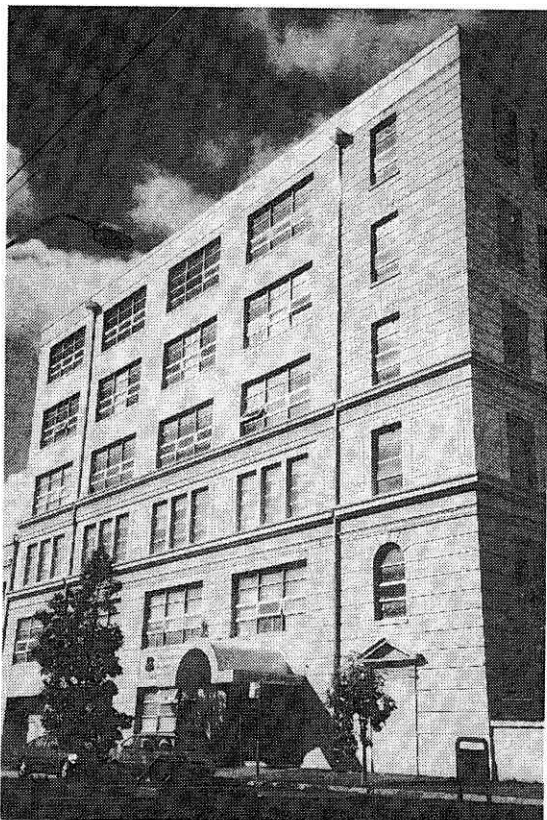


写真3 シドニー大学看護学部棟

次に、医療保険制度の仕組みの説明を受けた。オーストラリアでは、病院は一般外来医療を行わないで、各自がホームドクターを持つこと、Medicare（メディケア）という日本の国民皆保険に似た制度があり、人々がホームドクターあるいは公的病院の救急外来で受診する場合は医療費は無料になることを聞いた。近年、政府予算の削減から、在院日数の減少の動きが著しく、7年前には平均在院日数約20日であったが、現在では公立病院で4.2日、私立病院においては3.2日と短くなってきているとの説明を受けた。

## 2) Nursing in Australia

オーストラリアでは看護教育カリキュラムは州毎に

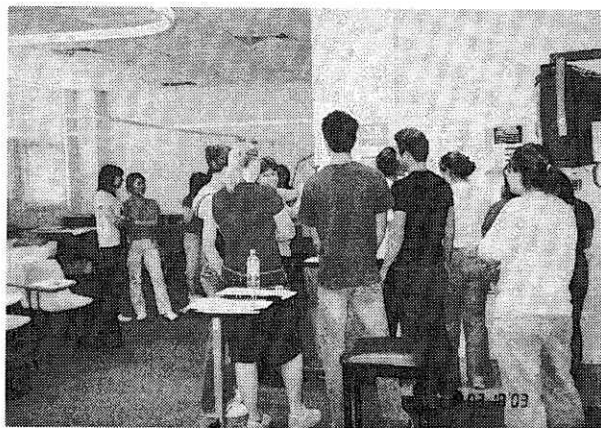


写真4 演習風景-1

JAPANESE NURSING STUDENT VISIT March 19 <sup>th</sup> 2003			
Schedule of Events			
9:30am - Meet at Hospital Front Entrance. I have allowed 10 minutes for introductions and to make our way to the meeting room.			
TIME	TOPIC	PRESENTER	VENUE
9:40-10:00am	Welcome to RPAH	Ms Katharine Sztiniak (Operational Nurse Manager)	ISD Meeting Room East Wing, Level 4
10:00-10:45am	'Nursing in Australia'	Ms Janice Gullick (Clinical Nurse Educator)	ISD Meeting Room East Wing, Level 4
10:45-11:00am	Morning Tea		ISD Meeting Room East Wing, Level 4
11:00-11:45am	Women & Babies Facility Tour	Ms Val Smith (Clinical Manager, Women & Children's Health)	RPA Women & Babies
11:45-12:30pm	Intensive Care 'Hot Floor' Tour	Ms Channelle Innes (Clinical Nurse Consultant, ICU)	ICU Hot Floor East Wing, Level 3
12:30-1:00pm	Emergency Nursing	Ms Gaye Hudson NUM, Emergency Department	Emergency Department

図4 病院見学スケジュール (Royal Prince Alfred Hospital)

決めることが出来る。そのため、別の州で看護師として業務に従事する場合は、その州で新たに看護師の登録をする必要がある。また、以下の点の説明を受けた。看護師になるための国家試験はないが、毎年免許を更新しなければならないこと、nurseにはRegistered Nurse (RN) = 正看護師とEnrolled Nurse (EN) = 准看護師の2つの資格が存在していること、さらにRNの教育は3年制の看護学士課程（4年課程になりつつある）があり、combined degreeと称して看護学とサイエンスの2分野の学士号を4年間で同時に取得できる課程を設けている大学もあること。また、ENは1～2年間実務経験を積みながら教育を受けることにより取得できる資格であること。

## 2 第2日：Tuesday, March 18, 2003

### 1) Nursing 3A - Tutorial：精神保健看護の講義

前半は、発達障害と看護ということで、まず発達障害が疑われる子ども（乳児、幼児前期、幼児後期）の実態を撮ったVTRによって問題提起がされた後、各期における子どもの発達の遅れやその家族の関わり方について学生たちに疑問や意見を求め、それに対して教員が答える授業形式がとられた（写真2参照）。

後半は、Mental Health Outcome Assessment Training (MH-OAT) による精神保健看護の講義であった。先に、『Sam's Story』という統合失調症を患った若い女性の治療の過程と女性の回想やその家族や友人の回想を映像としたVTRを学生たちに見せた。その後、MH-OATからこの女性の治療過程でどのようなassessmentやcase managementの計画を立てるべきかの問い掛け、レポート提出が学生たちに課せられた。

### 2) Tour of Faculty

初めに、学部内の図書室を見学した。ここには約200種類の看護学系の蔵書、雑誌を有しており、個室やコピールームなどの施設も設置されていた。本学の図書館でも取り入れられているが、コンピュータによる検索システムについても説明を受けた。シドニー大学看護学部のシラバスには、Web siteからダウンロードして予習・復習するように指示がなされている教科もあると聞き、教育におけるコンピュータ活用の一面を見た思いがした。

次に、看護学部棟（写真3参照）から徒歩で10分程の場所にあるメインキャンパスに向かった。シドニー大学の象徴ともいえる管理棟、図書館、購買部さらに食堂等の案内を受けた。

### 3) Nursing Concepts - Tutorial Clinical laboratories：看護の演習

前週に入学したばかりの1年生と一緒に受講した。初めに、教師から予習内容の解説と理解度確認のための質問が行われた。その後にHand Washingの演習が行われた（写真4参照）。本学の学生も彼等に加わって体験した。最後に、翌朝訪問する病院のRNに対して、質問を3つ考えるということで、3～5名のグループに分かれてディスカッションが行われた。本学の学生も加わり、指名を受けた際にはディスカッション内容を発表した。

## 3 第3日：Wednesday, March 19, 2003

### 1) Orientation and visit to Royal Prince Alfred Hospital (RPAH)：病院の訪問

病院見学の1つ目として、一般総合病院であるRPAHの見学を約半日のスケジュールで行った。はじめに看護部長による病院の概要説明があり、その後3つの病棟を病院側の用意したスケジュール（図4参照）に沿って見学した。

#### (1) Introduction：看護部長による概要説明

この病院は750床の一般総合病院で、3500人（1/3が看護師）のスタッフが働いている。病院長は看護師で、10年前から医師以外の職位も病院長を務めるようになったという。院長の下に、看護部長、医科部長、Corporate Services部門長が置かれ、彼等により運営されている。看護部門での業務と教育の進め方についての説明、さらに病棟の看護単位や勤務体制の説明を受けた。

#### (2) Women & Babies Facility（母と子の施設）

この施設では年間3,500～4,000件の出産があり、平均的には3～4日の在院であるという。スタッフは全て助産師である。病室は、1～2人の個室（トイレ、シャワー付き）で、壁や床頭台、ソファには病院を感じさせない装いがされており、面会は24時間可能で、入院期間中に両親や家族も入浴指導等の教育を受けるシステムができていた。また、妊婦は両親教室やDay stayのサービスを受けることができ、心配なことがある場合にはいつでも訪れることができる。

#### (3) Intensive Care "Hot Floor"（集中治療室）

一般ICU、脳神経ICU、心肺ICU、重症依存ICUの合計54床である。主な入室目的は、肝臓移植後（1件/週）、毒物によるもの、脳血管障害、交通事故、心臓疾患、その他機能不全である。一般ICUでは、予算の都合上17床中14床しか使われていないが、76%の稼働率である。入室者の平均年齢は56歳（13歳～91歳）、平均在院日数は2日（1日～88日）である。ここは2002年に新築され、電子カルテが導入されていて、全てをモニタリング出来るシステムとなっていた。

シドニー大学看護学部での本学学生の研修

表6 プレゼンテーションの内容

- 1 名古屋市立大学の組織図  
看護学部のカリキュラム
- 2 名古屋市立大学の位置  
日本の人口構造の特徴（少子化・高齢化）
- 3 老人保健対策と母子保健対策  
日本の医療保険制度について
- 4 医療施設と医療関係者(オーストラリアと日本の比較)
- 5 日本の看護教育のシステム  
名古屋市立大学看護学部の教育内容
- 6 看護師国家試験について
- 7 助産師の活動  
出産施設の動向（オーストラリアと日本の比較）
- 8 保健師の活動  
地域保険活動の内容

補足：ユニフォーム姿，演習風景（食事介助）

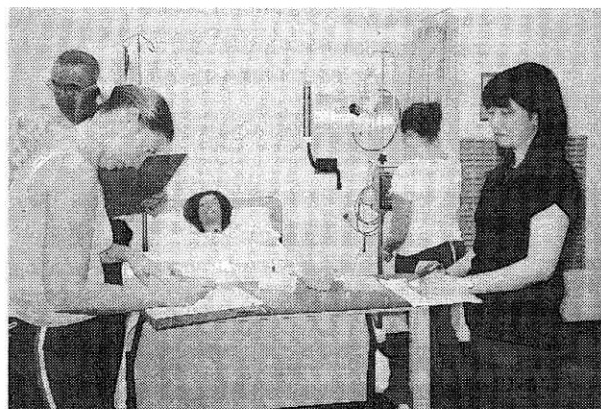


写真7 演習風景-2

#### (4) Emergency Nursing (救急病棟)

この部門は、病院とは別部門となっている。ここではTriage Nurse（治療の優先順位に基づいて病人を分類する役割）が配置され、受診時に患者の状態により「急性期」、「亜急性期」に分けられる。さらに急性期は、1：すぐにケアが必要、2：10分以内、3：30分以内、4：1時間以内、5：1.5時間以内と分類される。このシステムの導入により、患者の待ち時間が減少したことを強調していた。救急病棟では、心臓蘇生チームなど医師と看護師でチームを組んでいる。最近増加している家庭内の暴力、レイプによる患者の精神的なケアのために、social workerや精神看護のリエゾンナースもケアに当たっていると説明された。

#### 2) Afternoon tea with year 3 students and Faculty staffs : 交流会

交流会の開始後、『日本の看護と名古屋市立大学看護学部の紹介』と題して、表6の内容を本学学生8名が分担して持参した図表とともに、英語でプレゼンテーションを行った。ひとり約2分の持ち時間で、自己紹介から始まり、説明と質疑応答を行った。シドニー大学学生は6名の参加があり、誰もが真剣に聞いていた(写真5参照)。途中で「日本の人口は何人？」などと質問があり、プレゼンテーションの終了後には、パネルを見ながら質疑応答が盛んに行われた。新学期早々の事業で集まる人数が少ないのではないかと思われたが、副学部長のProf. Sue Armitageを始めとして学部のスタッフ5、6名の参加もあり、予期した以上の賑わいとなった。シドニー大学より準備された飲み物、クッキーなどと共に、日本から持参した折り紙の指導によって学生間の交流の場が一層和んだ(写真6参照)。

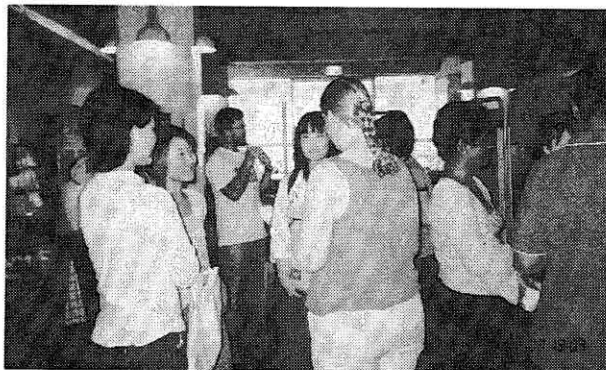


写真6 交流会-2

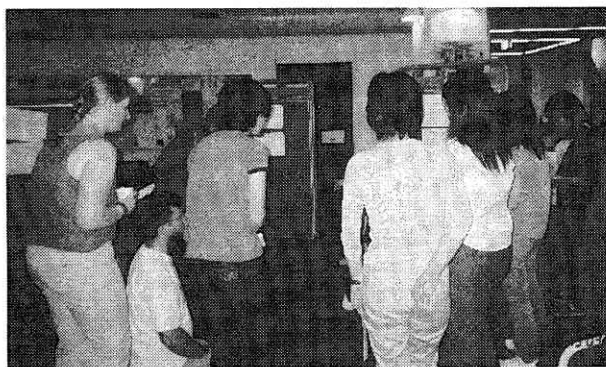


写真5 交流会-1



#### 4 第4日：Thursday, March 20, 2003

##### 1) Indigenous Australian Health issue : 先住民族アボリジニの課題

オーストラリアの特徴の一つは、先住民族アボリジニの存在である。彼等の居住地区では、電気やガスの普及率が以前は約40%であったが1997年には90%以上に向上してきた。

先住民族のおかれている医療環境および抱える問題について、人口、出生率、乳児死亡率、糖尿病などの罹患率などの具体的な数字の提示を受けながら説明を受けた。

アボリジニが継承してきた独自の文化を理解し、彼らの歴史観、政治的な仕組み、健康観、死生観あるいは食生活などの生活様式などをよく調査・理解することが、彼らに一番相応しいヘルスケアを提供できる道となる。学部長の考えに沿って、『先住民族の健康と看護 (Bachelor of nursing, Indigenous Australian Health)』のコースが、2003年度からシドニー大学看護学部 に設けられた。これはオーストラリアで初めてのコースであるということであった。

##### 2) Nursing Practice 3A—Clinical laboratories : 看護の演習

ここでは、輸液療法の一連の演習が行われた。教員が初めに輸液速度の計算方法の確認、シリンジの扱い方、輸液ポンプの使用法のデモンストレーションを示した後に、学生たちが2～3名のグループに分かれて(写真7参照)見学した。一人の教員で20名の学生を担当しているため十分に目が届かない様子であったので、すでに履修済みの本学学生がシドニー大学学生にアドバイスしている場面もあった。

#### 5 第5日：Friday, March 21, 2003

##### 1) Orientation and visit to Royal North Shore Hospital (RNSH) : 病院見学

病院見学の2つ目として、先回と同様に一般総合病院であるRNSHの見学を約半日のスケジュールで行なった。はじめに臨床側の教育担当者による病院の概要説明があり、次いで3つの病棟を見学した。

(1) Introduction (Clinical Nurse Educatorの責任者による概要説明) : New South Wales (以下、NSW)州には公立病院が5つあるが、RNSHはシドニー市北部の主要な公立病院である。この病院は、600床、常勤の看護師1,200名+非常勤看護師から構成されている。看護部は、外科系、内科系、ICU、母子、手術室、看護管理の6つの部門からなっている。平均在院日数は、4.5日で、NSW州の平均である3.

9日を上回っているという。予算の執行は、各部門単位に任されているが、各部門はベッド管理をはじめとして経営効率を上げるために非常に努力している旨を聞いた。

(2) 脳神経外科病棟 : 4人部屋が2部屋があり、トイレ、シャワー、洗面の施設が備え付けられていた。同じフロアに脊椎損傷等の病棟やリハビリテーション部門があり、行き来がしやすいように工夫されていた。

(3) Critical Care : 脳神経ICU 8床、心肺ICU 9床、一般ICU 17床の合計34床である。面会は原則として自由であるが、患者の状態によっては待合室で待機して、状態が落ち着いてから面会が許可される。

(4) Pediatric center : NETS (Newborn and pediatric Emergency Transport Service) といって、この病院には小児の搬送のためにヘリコプターが1機用意されている。本年の秋に新病棟に移転予定だが、医療の中核となるよう積極的に小児医療に取り組む必要があると説明された。法律により小児の安全、警備には特に気をつけるように義務付けされているため、小児病棟のバルコニーにはフェンスが付けてあり、入り口のドアには鍵がかかるようになっていた。スタッフは、看護師以外にプレイセラピストやリハビリテーションセラピスト、小児専門の作業療法士などを受け入れている。また、プレイルームが1つあり、子どもたちがプレイセラピストらと自由に遊ぶことができるようになっていた。感染予防の観点から、おもちゃは洗濯できるものだけに限定されていた。また、予防接種済みの犬を用いたpet therapyも取り入れられていた。この犬は、小児・老人・脳外科などの病棟も訪れて、患者たちに精神的な慰安を与えているという。

##### 2) Conclusion and summary of visit to Faculty of Nursing : まとめ

Ms. Judith Romaniniと共に、研修の最後のまとめを行った。参加学生全員がこの5日間の研修で学んだことに対する印象と反省を英語で発表した。それらは、「オーストラリアと日本の医療の違いがわかった」、「看護することに誇りを持たなければならない」、「学生との交流がとても印象的だった」などであった。Ms. Judithからは、「もっと人々へ看護について伝えていかなければならない」のコメントと共に、「看護の研究も積極的に行っていき、皆に知ってもらう活動を各自が行なう必要がある」との締めくくりで、1週間の研修が終了した。

## IV 考 察

参加学生に対して事前準備として、漠然と「英語力の向上を図りなさい」あるいは「日本とオーストラリアの看護（教育面、実践面その他）の違いを予習しておきなさい」と呼びかけるだけでは、どのように準備したらいいかわからないままに時間が過ぎる。全くの「無」からは「有」は生まれないと考えて、ある程度の「有」を担保する目的で、論文を読ませたりあるいは質問事項を英語でつくるように指導した。また、交流会で行なうプレゼンテーションの準備は、参加学生にとっても支援した教員にとっても大変に負担が多かったが、研修参加の準備には不可欠な過程であったと考える。

シドニー大学での初日の講義（オーストラリアの医療制度について）は、学生の理解度を確かめながら丁寧に進められた。しかし、学生にとっては日本の医療・看護を学ぶ途上であり、講義だけで日・豪の医療制度の違いを十分に理解することは難しかったと思われる。その後、第3日と第5日の病院見学で実際の看護の現場を見学することにより、徐々に理解が深まっていった。これらの病院見学は、医療に対する日本とオーストラリアの視点の違いを一目にして理解させたように思われた。

参加学生はシドニー大学学生と同じ講義や演習に参加したが、このことにより自分たちの従来の学習態度と比較でき、今後の学習姿勢で学生個々に感じるものがあつたようである。事実、最終日の反省会で「新学期からは、積極的に講義や演習に参加するつもりである」、「日本の医療のことをもっと知りたい」といった発言があつたことから考えて、本研修が看護学習へのモチベーションを高めたと確信した。

参加学生たちは、シドニー大学学生との交流を切望していた。研修後の参加報告書においても、「学生との交流ができて良かった」、「メールアドレスを交換できてよかった」、「たくさんの方が興味を持ってくれてうれしかった」と述べていた。自分と同じように看護を学び、看護師をはじめとした医療従事者になろうという志が同じ人との交流は、このような深いつながりを生むことを知った。

昨今は多くの学生が長期休暇を利用して海外短期留学に参加している。それと比較して、今回の研修では、単なる施設見学だけでなく、実際の講義や演習にも参加してシドニー大学看護学部生と共に授業を受けた。授業参加は参加学生にとって貴重な体験となろう。

## 文 献

- 1 森 雅美, 生田克夫, 勝又正直他: 名古屋市立大学看護学部とシドニー大学との学術交流—はじまりとその具体化作業—, 名古屋市立大学看護学部紀要, 4, 25-30, 2004.
- 2 Nursing in the World, the facts, needs and prospects, Japan (pp47-55) Australia (pp194-199), Fourth edition, Edited by Nursing in the World Editorial Committee and The International Nursing Foundation of Japan, Medical Friend Co. Ltd., Tokyo, 2000.
- 3 Faculty programs, Nursing 2001 The University of Sydney, Australia, October 2000.
- 4 訪問病院のホームページ
  - Royal Prince Alfred Hospital, <http://www.cs.nsw.gov.au/rpa/>, 2003.2.15.
  - Royal North Shore Hospital, <http://www.nsh.nsw.gov.au/rnsh/>, 2003.2.15.
- 5 生田清美子: オーストラリア・シドニー郊外住宅地連携と統合の高齢者ケア, 公衆衛生, 65(4), 312-316, 2001.
- 6 生田清美子: 病院が中心となったオーストラリア・北部シドニー地域の公衆衛生, 公衆衛生, 66(6), 454-456, 2002.
- 7 鳩野洋子: オーストラリアの地域保健活動レポート: 前編 コミュニティ・ナースはどのような活動をしているか, 保健婦雑誌, 58(5), 402-406, 2002.
- 8 鳩野洋子: オーストラリアの地域保健活動レポート: 後編 コミュニティ・ナースの活動と求められる能力, 保健婦雑誌, 58(6), 494-498, 2002.
- 9 本間・チェン・繭子: 看護先進国オーストラリアに学ぼう 第2回 看護学士を取得するための2つの課題, 月刊ナースデータ, 23(2), 50-54, 2002.
- 10 本間・チェン・繭子: 看護先進国オーストラリアに学ぼう 第3回 看護師免許取得のプログラム, 月刊ナースデータ 23(3), 63-66, 2002.
- 11 本間・チェン・繭子: 看護先進国オーストラリアに学ぼう 第4回 看護学士課程での病棟実習, 月刊ナースデータ, 23(4), 71-75, 2002.
- 12 本間・チェン・繭子: 看護先進国オーストラリアに学ぼう 第6回 学生の自主性を重視する授業スタイル, 月刊ナースデータ, 23(6), 71-75, 2002.
- 13 Commonwealth of Australia (2003): Australian Bureau of Statistics, <http://www.abs.gov.au/>, 2003.2.15.

(受稿 平成15年10月9日)

(受理 平成16年1月13日)